

第4回 未来京都・人づくり懇話会 結果概要

- 1 日 時 令和7年5月23日（金）午前9時30分から午前11時30分
- 2 場 所 京都ガーデンパレス 2階 祇園
- 3 出席者 泉谷委員、奥平委員、小畑委員、笹岡委員、竹安委員、鳥屋尾委員、野崎委員、宗田委員、山極委員、渡辺委員
- 4 概 要 事務局で取りまとめたテーマレポート案、次回以降懇話会のテーマについて委員から意見をいただいた。

5 主な意見

○テーマレポートについて

- ・京都の強みや魅力を示すキャッチフレーズが冒頭にあるとよい。
- ・祭りやイベントなどワクワクするような内容があるとよい。
- ・中小企業という特定のグループを支援するという内容ではなく、変革を目指す企業を支援するという内容を記載すべき。
- ・京都府民が主体になっていないような印象がある。京都府民が主体的にやろうとしていることへの支援が必要である。
- ・京都に住み続けるだけでなく、人生の一時期を京都で過ごすことにも価値があるという視点も重要である。
- ・世界的な課題である人口減少や労働力不足への対応として、労働力を増やすよりも技術導入等により生産性向上を目指すことがより重要である。
- ・レポートのテーマについて、「若者」とともに「女性」をもう1つの柱とすべき。
- ・議論の範囲を明確に定義した上で、レポート案を公表する必要がある。

○教育について

- ・教育まかせではなく、各業界が教育機関にテーマや教材を提供し、京都の産業への理解を促す必要がある。
- ・高校生と大学生では支援の方向性が異なるため、分けて対応すべき。
- ・京都で人を育て、人を生かすには、学んだことや身につけた能力を生かす場が必要。
- ・若者議会のような、学生世代が京都の将来について議論する場を設ければ、府政に生かすことができると思う。
- ・次回以降は、人づくり、教育というテーマに絞って議論してもよいと思う。具体的なトピックとして、小学・中学・高校へのキャリアアドバイザーの導入や部活動の廃止等、日本の教育システムの検討が考えられる。
- ・人材育成の取組を発信するためのキャッチフレーズ、キャッチコピーについて、次回以降議論したい。

○女性への支援について

- ・京都府は政治意識の改革についての取組が弱く、女性議員が増えていない。女性議員が増えると地域の空気が変わり、女性に選ばれる地域になると思う。
- ・女性が活躍しやすい風土にしていくために京都府として何ができるか、検討することを提案する。

○外国人への支援について

- ・留学生がアニメやゲームに関心があること、京都とのつながりを求めていることを踏まえた支援が必要。
- ・外国人を単なる労働力として捉えるのではなく、いかに文化的に包摂するかが重要。京都の文化的背景を活かし、外国人が住みやすく、安心できる環境をつくる必要がある。

○企業への支援について

- ・特に必要なのは、中小企業の産業構造変革への支援。経営者の意識改革を促す方法として、生産性向上等をテーマとする経営者向けの研修に補助金を交付することが考えられる。
- ・次回以降、ベンチャー企業への支援について検討するのはどうか。失敗してもやり直せるような制度を充実させる必要がある。

○関係づくりについて

- ・若者が京都に戻ってくるための施策として、京都での友達づくりをサポートする取組が考えられる。
- ・京都は、個人の力ではどうにもならない課題を集団や関係の力で乗り越えていくことができるよう、若者や女性の関係づくり、地域おこしに取り組むべき。

○地域特性を踏まえた取組について

- ・京都というと京都市内を中心に議論が進んでしまうが、京都府北部、中部、南部にも目を向ける必要がある。特に北部、中部の人口減少は大きな課題である。地域特性を踏まえ、より分析的な議論が必要である。

○その他

- ・まちづくりに必要な、①住む魅力、②働く魅力、③暮らす魅力、④楽しむ魅力、⑤学ぶ魅力の5つを高めることで人が集まる。
- ・新たな施策を行うのか、既存の施策をつなぎ合わせるのかを検討するための方法として、既存の施策を整理して連関表を作成することが考えられる。
- ・京都府が目指すまちづくりのビジョンがはっきりしてはじめて、人づくりについて議論できる。また、取組の主体やロードマップを具体的に示していく必要がある。